

平和の使者

創刊号
vol. 1
2022年4月発行

エール学園 新理事長

崎村 真



卒業生のみなさま、この春に理事長に就任しました崎村真と申します。エール学園は1967年に創立し、現在55年目を迎えております。かつての予備校、専門学校は2006年に1つの専門学校に統合され、学校名も「エール学園」として運営をしております。これまでに送り出した卒業生は10万人を超えています。1990年代より徐々に国際化の取り組みを強め、現在では留学生が1500人規模の専門学校に発展しました。近年は留学生の卒業生が増え、卒業生も国内外の多岐にわたる国・地域にて多彩な活躍をしています。

私自身も1991年、エール学園に日本語教育学科の担当として入職して以来、留学生教育の道を歩んでまいりました。その中で、多くの卒業生の方々と出会う機会があり、ご支援をいただけてきました。海外出張の際に出会うことも、国内の会合などで出会うことも多くありました。また卒業生のご子弟がエール学園にご入学されることもございました。エール学園の卒業生を就職で採用いただくこともございました。そんな出会いがあるたびに教育者として誇らしく思っています。

エール学園を巣立られた卒業生のみなさまが、世界の各地で、そして日本で活躍のことと存じます。このことは私たち教職員の矜持であるとともに、貴重な財産であると思います。そんなみなさまとエール学園の在校生、教職員とをつな

ぐ活動の始めに、校友会誌「平和の使者」を発行することとなりました。「平和の使者」は私たちの国内外の青年の教育にかける思いでもあります。この会報誌を手始めに卒業生と在校生、教職員が「エール学園での学び」を絆として温め、そしてその輪を広げ、世界各地でエール学園の理念である「共生、共創社会」の実現のために活用できれば幸いに思います。

今、新型コロナ禍が世界を席巻し、私たちの行動が大きく制限を受けています。平和の礎である国際人流が大きな危機を迎えています。その困難、制限の中でも、今年も多くの卒業生が巣立っていききました。授業の多くがオンラインでしたが、その困難を学生、教職員の努力によって乗り越え、「学び」を継続し、進学に就職に大きな成果をあげてくれています。またこの4月にも困難を乗り越えて多くの留学生が入学をしております。まだまだコロナ禍が終息するには少し時間がかかると思いますが、私たちは、入学者とともに新しい時代を背負う心意気で心を合わせて、この困難を乗り越えてまいります。

こうした私たちの学園の取り組みを卒業生のみなさまに発信していきたいと思っています。エール学園を自身の母校として誇らしく思っていただけのように私たち教職員一同も引き続きこの学校を発展させるため努力する所存ですので、ご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

萩原大作前校長の後を受け、4月1日にエール学園の校長に就任しました木村多恵子です。校友会誌をお借りして、ご挨拶を申し上げます。

卒業生のみなさま、健やかにお過ごしでしょうか。学業や仕事は順調でしょうか。学園は、今年度も新型コロナウイルス感染症が蔓延する中でのスタートとなりました。入学式も昨年同様にオンラインとなり、授業も当面、オンライン授業と対面授業を組み合わせた「混合授業」となります。大変厳しい状況の中ではありますが、教職員一同、通常の学習活動が実施できるよう努めているところです。

新型コロナウイルスに加え、紛争、難民、貧困、犯罪、災害、気候変動など、世界ではさまざまな問題が起こっています。グローバル化が急速に進展し、そうした国内外のさまざまな問題が私たちの日常に影響を及ぼすようになってきました。この時代を私たちはどう生きるべきなのでしょう。

私はメンタリングがこの混沌とした時代の道標になると思っています。2005年にエール学園に入職した私は、国際メンタリングプログラムエリートスクールでメンタリングを学ぶ機会を得ました。その中で最も印象に残っているのは、多角的な視点で物事を捉える重要性です。

そこで必要なのが、「鳥の目」「虫の目」「魚の目」の3つの目（視点）。この言葉は普段は経営の中で使われますが、日々の暮らしの中でも新たな目線で物事を見るヒントになります。

「虫の目」とは、虫のように近いところから物事を注意深く見る視点。事象を細分化し、掘り下げて細かく見ることです。見えないモノを見る目、そして普段見ない角度から物事を見ることを意味します。つまり、それは視点の深さ、観察力、洞察力、論理的思考のことを指します。

「鳥の目」とは、空を飛び鳥のように、物事を高いところから俯瞰する目。虫のように近い場所だけ見ていては分からないことも、高いところから広く見たことで、複合的に理解することができま

す。言い換えれば、視野の広さです。「魚の目」とは、魚が水の流れに従って泳ぐように時流を読む目です。成熟したグローバル社会は「VUCA時代」ともいわれます。このVUCAとは、変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)。つまり、明確な正解がなく、先行きが見えない時代だからこそ、より時代の流れを見極めながら決断することが重視されてきています。

視点を変えれば、見えてくる景色も変わります。悩みを持ったときも、さまざまな角度から見つめてみることで、心が少し軽やかになり、今までとは違った気持ちで向き合えるようになるのではないのでしょうか。

最後に、一日も早く平穏な生活に戻りみなさまにお会いできる日を願っております。

エール学園 新校長
木村 多恵子



今後の情報をご希望の方は、
右記のサイトから校友会に登録してください。

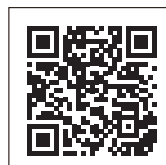
校友会のページには「Facebook」「LINE」「WeChat」からもアクセスできます。



校友会
ホームページ



facebook



LINE



WeChat



国際コミュニケーション学科2015年卒業
株式会社ホライゾンズ取締役総監督

胡智偉さん「台湾出身」

たくさんの人と出会い、 導かれて今の私があります



「なぜ、日本に留学しようと思ったのですか？」

きっかけは野球です。日本のプロ野球は台湾でも人気で、私も大ファンでした。大学卒業後は日本語の勉強をしたり、試合観戦のために日本を訪れたりもしました。やがて日本で働きたいと思うようになり、5年間、台湾のヤマト運輸でセールスドライバーをしながら資金を貯めました。

来日したのは2010年、28歳のときです。日本語学校に1年通い、ワーキング・ホリデー制度を利用して働きました。その後、本格的に日本で就職しようと考え、TERA外語ビジネス学院、エール学園へと進みました。

「エール学園での学生生活はどうでしたか？」

積極的にイベントやボランティアに参加しました。大阪マラソンのサポートをしたこと、浪速区長から賞をいただいたこと、たくさんさんの思い出があります。掲示板に、参加者募集の情報を見つけるとす

の契約業務、旅行博覧会出展業務など、多くの経験をさせていただきました。契約期間が終わってからも提携先の会社で働くことができ、引き続き業務を続けることができました。

現在はエール学園から歩いてすぐの場所、「株式会社ホライゾンズ」という会社を営んでいます。主な事業は日本の鉄道車両・部品の台湾への輸出と、台湾の鉄道模型の日本での販売。「日本で鉄道関係のビジネスをしたい」という台湾の方との出会いからスタートしたプロジェクトです。ちょうど立ち上がったところで、日々がんばっています。

「今後、やりたいと思っていることはありますか？」

まずは会社を大きくすることです。加えて、日本の「地方」の魅力を多くの人に届けるビジネスをしたいと思っています。私は「国内旅行取扱責任者」「総合旅行取扱責任者」の資格を持っているので、それを生かして「地方創生」や「地域活性化」に役立てたいと思っています。

実は先日、筆の都として有名な広島県熊野町で、現在ほとんど使われていない施設の利活用に関するアイデア募集があり、私の案が優秀賞を頂きました。これまで新型コロナウイルスの影響で、なかなか現地に行けなかったんですが、まん延防止措置が解除された先週末、家族で訪れることができ、伝統文化と豊かな自然を満喫しました。これからも、日本のいろんな場所を旅行してみたいと思っています。

「日本で暮らすようになって、仕事以外ではどんな変化がありましたか？」

一番大きな出来事は、結婚して長女が生まれたことでしょうか。南海電鉄に勤めている頃です。妻も台湾出身で、日本語が苦手だったので、出産のときは病院の手続きなどで大変でした。「子どもが急に熱を出した」と妻から連絡があり、途中で退社させてもらって、病院に連れ行ったこともありました。

これまでを振り返ってみると、学校の方々、職場の方々、友人たち、いろんな人たちのサポートがあって、今の私があるんだなと実感します。みなさんに感謝ですね。



応用日本語学科2021年卒業
鹿児島大学農学部2年

ユン ヒョンソク さん【韓国出身】

日本で最先端の畜産を学び 家業を成長させたい

「なぜ、日本に留学しようと思ったのですか？」

高校生の頃、この先、卒業して大学に進むよりも、もっと違った経験をしたいと思ったことがきっかけ。それから留学を考えるようになりました。在日の親戚がいることもあって、留学先には日本を選びました。

「エール学園に入学した経緯を教えてください。」

日本に来たのは2018年です。まず1年間、東京の日本語学校に。それから大学進学を目指してエール学園に入学しました。東京で暮らしているのに、大阪にあるエール学園への入学を決めたのには2つ理由があります。

1つは新しい経験をしたかったから。東京以外の町でも暮らしてみたいからです。実際、大阪に住んでみると東京とは雰囲気の違いがありました。東京はどこか硬い印象を受けたんですが、大阪は賑やかで、親しみやすい感じを受けました。

そしてもう一つの理由は、教育環境がととのっていることです。エール学園は、大学入試に向けた勉強がしっかりとできると、日本語学校で出会った人などから聞いていました。

「エール学園での2年間はどうでしたか？」

大学進学を目指すので、授業はかなり難しかった。ですが先生方のサポートもあって、大学に合格することができました。

特に苦手だった面接は、練習をたくさんしてもらいました。面接自体、緊張してしまうのに、日本語で話さないとはいけませんから、とにかく何度も練習して慣れることができたのだと思います。

同級生には韓国人の留学生も多く、情報交換もできて楽しかった

です。ほかの国の人たちとも食事したり、アメリカ村や道頓堀に遊びに行ったりもしました。役所の手続きなど、どうしたらいいかわからないことも、友達のおかげでうまくいきました。

「現在の大学を選んだ理由は？」

私の実家は、韓国・金浦で牛や豚の畜産をしています。将来的には家業を継ぎたいという思いもあって、畜産を学べる大学を志望しました。

大学は鹿児島以外にも北海道の帯広など、いくつか候補がありました。ただ北海道の畜産はアメリカ的な大規模なもので、家業の畜産は九州のほうが近いんです。そういったこともあって鹿児島大学の農学部へ。

鹿児島は、畜産のスタイルは金浦と似ていますが、気候はまったく違います。金浦は冬は雪が積りますが、鹿児島は温かくて過ごしやすい。でも夏はちょっと暑すぎます（笑）。

「大学生活はいかがですか？」

大学は真面目に勉強している人が多くて、私もがんばらないといけないなと思ってしています。クラブ活動では、写真部に入っています。昔から写真を撮ることが趣味なんです。昨年は、新型コロナウイルスの影響で1度だけになりましたが、1泊の撮影旅行にも出かけました。

「日本に来て、どんなことに苦労しましたか？」

最初はやはり言葉です。まだ日本語学校に通っている頃は、文字が読めなかったのが戸惑いました。地下鉄の乗る方向を間違えたりもしました。親切な人が多くて、助けてもらったりしましたね。

鹿児島に住むようになってからは、何と言っても桜島です。韓国には活火山はありませんから、火山灰が降ってくるなんて考えもしませんでした！

「これからの目標を教えてください。」

今後は大学院に進んで、より現代的な畜産を学びたいと思っています。ドローンやロボットなど、ITを活用したスマートファームです。将来的には、そうした技術を身につけて韓国に戻り、家業に役立たせたいと思っています。





応用日本語学科2021年卒業
九州大学工学部2年
ジョクトSHOW
徐 徳勝さん【中国出身】

自信を失ったときの先生の励ましが 志望校合格につながりました

——なぜ、日本に留学しようと思ったのですか？

小さい頃から日本のアニメのファンだったんです。ワンピースも好きで、ナルトも好き。日本に留学したいと思って、日本語の専門学校に2年行きました。それから日本に来て、大阪の日本語学校に1年半通いました。

——エール学園に入学した経緯を教えてください。

中国で2年、日本で1年半、日本語を勉強してきて、「次は日本の大学で学びたい」と思いました。大学では、得意の物理を生かして機械工学を勉強するのが目標。そこで大学入試に実績のある、エール学園に入学しました。

エール学園では勉強もしないといけないし、生活のためにはアルバイトもしないといけないので、大変でしたが充実した日々を送ることができました。中国人の学生も多くいましたし、毎晩LINEで日本語の練習をしてくれる先輩がいたりして、人にも恵まれました。

——受験勉強はどうでしたか？

やっぱり日本語が難しかったですね。知識はあるのに、問題に書かれている質問が分からなかったりしました。先生方が優しく、ていねいに教えてくれたことを覚えています。

特に時間をかけたのは面接対策です。あいさつの仕方など、いろいろなマナーを担当の菅先生から教わりました。コロナの影響で、オンライン授業も多かったのですが、楽しく勉強することができました。

——大学はどのように選びましたか？

菅先生に相談し、自分が大学で勉強したいことや、どんな入試科目があるかなど、さまざまな点から志望大学を決めました。九州大学のほかに、名古屋大学や大阪市

立大学（現・大阪公立大学）、金沢大学なども受験したのですが、菅先生には、願書を出す時期とか、目安の点数とか、たくさんサポートしてもらいました。

実は、九州大学の面接が近づいてきた時期に一度、合格する自信がなくて、行くのをやめようと思ったことがあります。菅先生にそのことを伝えると、励ましの言葉をもらい、勇気づけられました。その後、合格することができたので、感謝しかありません。

——大学での生活はどうですか？

大学に入るまでは、周りの学生はみんな留学生でした。今はほとんどが日本人。初めて日本の学生と一緒に授業を受けているわけですが、優秀な人が多いです。

先日物理の授業で先生が、「早く解けた人は早く帰れます」と問題配ったんです。私はまだ全然解けていないのに、まわりの人がどんどん帰って行く。もっと勉強しないといけませんね。

まわりの人はいい人ばかりです。九州大学の留学生支援係でアルバイトをさせてもらっているのですが、みなさんいろいろ教えてくれます。クリスマスのときはケーキと紅茶をごちそうになりました。福岡の町は、最初は騒々しくてイメージが悪かったです。でも1年暮らしていると、きれいな町並みもあり、歴史も感じることできて、いい町だなと思うようになりました。食べ物もいい。でも博多ラーメンは、ちょっと油が多すぎるかな（笑）。

——今後はどんな夢を持っていますか？

まずは今、学んでいることを身につけること。大学で研究生になればいいなと思っています。その後はまだ決めていませんが、日本で働きたいです。

エール学園に通っていたときの友達とも、いまだに付き合いがあります。みんな別々の大学に進んでいますが、お正月に福岡に遊びに来てくれたりしました。これからも仲間たちとの交流は続けていきたいです。

旅行もしたいですね。日本の城や庭園が好きです。大阪城、金沢の兼六園、それから奈良公園。たくさん鹿に囲まれたときには、「この町に住みたい！」って思いました。



国際コミュニケーション学科2年
パリアル ケシャルさん
「ネパール出身」

いつも前向きな気持ちで、
笑顔を絶やさずに

——なぜ、日本に留学しようと思ったのですか？

将来の夢は、ネパールで外国人観光客向けのホテルを開くこと。高校ではホテルマネジメントを勉強していました。卒業後は留学し、ホテルの仕事について深く学びたいと考えていました。

留学先には日本のほか、オーストラリアなど、英語圏の国も候補でした。各国の学習環境や治安についてインターネットで調べたり、先生に聞いたりして、最終的には日本に決めました。それからネパールの日本語学校で学び、2019年、19歳のときに大阪の日本語学校に入学しました。

日本語学校には1年半通い、さらに日本での経験を積むためにエール学園へ。現在は、国際コミュニケーション学科の

サービス・通訳コースで学んでいます。

——日本での暮らしはいかがですか？

日本に来て間もない頃は慣れないことばかりで失敗続き。スーパーで塩を買ったつもりが、砂糖だったこともありました。ネパールでは、塩と砂糖は見れば分かるんです。塩はネパールも日本も同じ形ですが、ネパールの砂糖は粒が大きい（※ネパールでは砂糖と言えばグラニュー糖）。日本のように見た目がそっくりで、漢字が読めないと、区別がつかないんです。値段もほとんど変わりませんし。だから、漢字をしっかり調べるようになりましたね。

でも、だんだん日本の生活に慣れてくると、楽しいことが増えました。日本食も大好きです。寿司もおいしいし、大阪のたこ焼きやお好み焼きもおいしい。ア

ルバイトも楽しくできています。マクドナルドで働いているんですが、日本語学校のときからなので2年以上になります。

——エール学園での学生生活はいかがですか？

今、ちょうどエール学園に入って1年が過ぎたところ。勉強はどんな難しくなっていますが、クラスメイトと励まし合いながらがんばっています。

勉強以外では、いろいろなイベントやボランティア活動があるのが、エール学園の魅力だと思います。これまでの一番の思い出は「国際紅白歌合戦」に出場したこと。日本語を勉強する人たちのために作られた曲『笑顔でハッピーボイス』を歌って、賞をもらいました。緊張したけれど、思いっきり歌えました。

それから堺市の美原高校で、ネパールを紹介する特別授業をさせてもらったのも印象に残っています。生徒のみなさんに、私が作ったネパールについての動画を見てもらい、どんな国なのか説明しました。いろんなコメントをもらって、うれしかったですね。「日本語うまい」とか「イケメン」とか（笑）。

そうしたイベント、ボランティア活動を通じて、違うクラスの学生とも知り合えました。みんなでカラオケに行ったこともあるんですよ。10人ぐらいいたかな。ネパール、ベトナム、インドネシア、

国もいろいろ、歌もいろいろ。最初はみんなが分かるように英語の歌で、最後は一人ずつ、自分の国の歌を歌いました。ベトナムやインドネシアの言葉は分からなかったけれど、音楽を聞いていると、気持ちを感じることができました。

——今後の目標を教えてください。

エール学園を卒業したら、日本の旅館で働きたいと思っています。食など、日本ならではのさまざまな文化を体験できるのが旅館。外国の観光客に、そうした日本文化を伝えたい。そして、たくさん経験を積んで、学んだことをネパールに持ち帰りたいです。

自分の国を離れて生活していると、たまには疲れたり、さみしくなったりもします。でも、いつも前向きで笑顔でいたいと思っています。ホテルなどのサービス業でも笑顔は大事ですね。

MESSAGE

言葉は、人の心と心をつなぐ大切なもの

日本語講師
荻 富美



1996年からエール学園で日本語教師をしています。仕事は楽しく、やりがいを感じます。日本語を教えるだけではなく、学生たちの自立をサポートすること、人生に関わることができるところです。

短期間ですが、韓国留学の経験も教師の仕事に役立っています。つまづくポイントやアドバイスがほしいタイミングなど、学生になって感じたことがありました。授業では、何か一つでも「今日学校に来てよかった」と思ってもらえるように心がけています。日本語でたくさん話をして、「伝わった」「楽しい」と思えることを大切にしています。

また「留学生さとおやの会」で私は、17年にわたって12名の留学生の里親をしています。日本で就職、結婚、出産をした里子もいます。「里おばあちゃん」ですね。日本文化などの家庭教育、進路・生活指導が主な活動内容で、私自身も多くの学びがあり、仕事に生かしています。

元来、私は人と接することが好きなタイプで、学生と接する時は生き生きと仕事をしています。夢をもってエール学園に入學してくれた学生との縁を大切にしたいです。

学生のみなさんには、人の痛みを知る人になってほしいです。人の痛みを知れば人に優しくなれます。感謝の気持ちが育ち、自分自身の内省も深まるでしょう。簡単なことではありませんが、とても大切なことだと思います。

最近、人との付き合い方が分からない学生が多いように感じます。オンライン授業が増え、雑談が減ったことが要因かもしれません。スマホで何でもできる時代ですが、依存してしまうと母国の情報だけを検索したり、同じ国の友人ばかり増えたり…。せっかく日本に来ているのに、もったいないですね。

言葉は人の心と心をつなぐ、大切なもの。こんな時代だからこそ、言葉を使って会話をすることに価値があるのではないのでしょうか。学生のみなさんには「これを勉強した！」と将来自信をもって言えるようにがんばってほしいです。私も授業を通してサポートします。

MESSAGE

人の痛みを知り、人の支えとなる人に

副校長
比嘉 松子



私のエール学園との出会いは1969年でした。当初、経理の仕事を中心に秘書課や総務、人事の仕事も経験し、現在は副校長をしています。長く勤務しているのも、大変な時代もありました。しかし、その経験や学びがあるからこそ今の私がいるのだと思います。

私のアイデンティティーはエール学園での仕事とともに確立されました。そして、新しいことへの挑戦、教育への力の入れ方などに共感してきました。仕事をする上では、相手の立場や人間関係を大切にしています。これは私の両親からの教育です。幼い頃は理解が難しかったのですが、今は感謝しています。

また「留学生さとおやの会」で私は、17年にわたって12名の留学生の里親をしています。日本で就職、結婚、出産をした里子もいます。「里おばあちゃん」ですね。日本文化などの家庭教育、進路・生活指導が主な活動内容で、私自身も多くの学びがあり、仕事に生かしています。

元来、私は人と接することが好きなタイプで、学生と接する時は生き生きと仕事をしています。夢をもってエール学園に入學してくれた学生との縁を大切にしたいです。

学生のみなさんには、人の痛みを知る人になってほしいです。人の痛みを知れば人に優しくなれます。感謝の気持ちが育ち、自分自身の内省も深まるでしょう。簡単なことではありませんが、とても大切なことだと思います。

お知らせ

デザートをプレゼント！
エール学園・校内カフェ「PEACE CAFE」



ランチや休憩にお友達と来てください。エール学園1号館の1Fエントランスに入口があります。たくさんの方のご利用お待ちしております。何か1つ購入時に、「平和の使者を見ました！」と言っただけしたら、好きなデザートが1つプレゼントします。2022年5月末まで

編集後記

きれいな桜も散り始め、新たな出会いに胸を弾ませていることと思います。発行にあたり今回もたくさんの方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。校友会誌を通して、エール学園の在校生や卒業生のパワーを糧に、これからの1年も皆さん頑張ってくださいね。次の取材はあなたかもしれませんよ ^^

学校法人エール学園 海外事務所

- エールチャイナ(中国・上海)
- エイムハイグローバル(韓国・ソウル)
- エールベトナム(ベトナム・ハノイ)

編集・発行	学校法人エール学園校友会「平和の使者」制作委員会
発行所	株式会社ATLAS EHLE 大阪市浪速区難波中3-13-1 TEL06-6647-0028
デザイン	株式会社藤工作所
印刷	南海印刷株式会社

AI・ロボティクスの時代だからこそ人間力が求められる！

- アソシエイトメンターコース
- エグゼクティブメンターコース
- チーフエグゼクティブメンターコース

IMGS 国際メンターシップグラジュエートスクール
☎06-6647-0013 <https://im.gs.ehle.ac.jp>

生活日本語から
ビジネス日本語まで
子どもから大人まで
☎06-6647-0021



あなたに合わせて日本語学習をサポート

TERA SCHOOL OF BUSINESS AND COMMUNICATION

TERA

外語ビジネス学院

TERA PRIVATE LANGUAGE SCHOOL

EN

日本語学校

SEIKO ACADEMY OF FOREIGN LANGUAGES

SEIKO

外語学園

農家野菜と鮮魚とお肉。イタリア各地で修業したシェフによる、ごちそう満載

felicibo フェリチーボ <http://felicibo.com>
大阪市浪速区難波中3-9-1 難波ビル1F | TEL 06-6556-9568 | OPEN 18:00~23:00 | CLOSE 日曜

一緒に、仕事さがし。

職業紹介

オンライン講座

団体研修

<https://atlas.ehle.com>

株式会社 **ATLAS EHLE** TEL **06-6647-0028**